

きずな(絆) No.7 発行:全日本民医連 震災対策本部

★★関連情報・重要なおしらせを全日本民医連 H.P に掲載しています。活用してください。

全国の仲間て被災者のもとへ！民医連綱領の実践を

■「血圧 220 の人や低酸素血症で救急搬送も」沖縄民医連

「大変な状況だよ」と、日ごろ冷静な医師が、避難所回りで医療相談を受けながら極めてショックをうけた感想を次のように報告してきました。

「午前中、小学校、中学校を避難所に行っている方々のところを回った。2ヶ所とも 500 人の被災者でひしめき合っている。みんな疲れきっている。医療相談で来たことを伝えたら、次々に症状を訴えられた。下痢が続いている人、血圧が高くなっている人、中には 220 の人もいた。血圧の薬が切れている人も。風邪薬や軟膏、下痢止めなどの処方をしたが、医薬品も絶対的に不足している。子どものオムツかぶれもひどい。避難所から低酸素血症で救急搬送された人もいた。午後からは、2,000 人規模で避難所になっている公会堂をまわった。人があふれ、階段や廊下に段ボールを敷いて避難している。4 人の医師が医療相談コーナーを始めたら殺到し、相談にのりきれない状態だった。ショックだったのは、小学校の教室を回ったら、全ての机の上に整然とランドセルが並べられていたこと。地震で緊急避難したままになっている」（「沖縄民医連支援ニュース 第 3 号」3/18 より）

■「こころひとつに全力で支援を！」京都・信和会ブロック



3 月 14 日（月）昼休みに北館食堂で病院と民医労東支部共催で緊急職員集会在開催され、職員・友の会 130 名が参加しました。門院長より民医連の支援活動の状況報告と当面の行動を提起しました。支援予定者の外来事務が、「山形出身です。自宅は無事でしたが仙台の友人等は連絡を取れません。現地支援に志願しました。厳しい職場ですが送り出してもらいます。リュックが必要とメールで回したら数分の中に 5 人から提供の申し出がありました。心ひとつにし、要請があれば

いつでも支援に行く用意はできています」、東支部支部長は、「戚が被災しました。まだ連絡がとれません。全力で支援活動にあたります」と発言しました。全職員こころひとつに支援活動に全力を上げることを確認しました。（「京都信和会ブロック東日本大震災支援ニュース No.01」3/14 より）

<おしらせ>

- 支援ニュースや新聞掲載記事(全国紙も東京本社版では掲載されません)など、info@min-iren.gr.jp(全日本民医連代表アドレス)に、集中してください。
- 全日本民医連HPで関連情報・動画を掲載。活用し職場での意思統一、学習会を積極的に開催しましょう。